

2017年1月5日

年頭所感 (2017年1月)

明けましておめでとうございます。今年のお正月はおだやかな好天に恵まれました。皆さんそれぞれに年末・年始のお休みを過ごされたことと思います。大晦日に除夜の鐘を聞き、年明けて初詣に参りますと、心あらたまり、新年に向かって希望と勇気が湧いてきます。皆さんそれぞれに新たな気持ちと抱負を抱いて入社されたことと思います。新年の朝礼であり、年頭の所感を申し述べます。

昨年は、英国のEU離脱の可否を問う国民投票と米国大統領選挙という世界の政治、経済を左右する重要イベントで大方の予想を覆す結果が出ました。その背景に中間層・労働者層の格差拡大に対する政府への不満があり、行き過ぎたグローバリズムに反発する大衆迎合主義（ポピュリズム）、孤立主義、保護主義の台頭があるといわれています。昨年末のクリスマスシーズンにドイツの首都ベルリンでイスラム過激派によるテロ事件が起きました。今年は、3月のオランダ下院議会選挙、3月末の英国によるEU離脱通告と交渉の開始、4月から5月にかけての仏大統領選挙、9月の独連邦議会選挙とEU主要国で重要な政治イベントが続いて行われます。この事件の影響が、ドイツ国内のみならずEU全体に及ぶのは避けられません。EUの大黒柱ともいえるドイツ国内でも移民・難民に対し寛容な政策を取ってきたメルケル政権に批判の声が大きくなって来ており、反EU政党が存在感を強めています。ドイツと並ぶEU主要国のフランスでは極右政党「国民戦線（FN）」のルペン党首が支持率を伸ばしています。分離の方向（遠心力）に向かうのか、統合の方向（求心力）に向かうのか、EUは存続の岐路に立たされます。

昨年11月、米大統領選挙で大方の予想に反しトランプ候補が勝利して以降、トランプ次期大統領の経済政策への期待から米国の株式市場は史上最高値を更新し、ドルも主要通貨に対し独歩高で推移しています。トランプ氏は積極財政型の経済政策を実施することで、今後10年の米国の経済成長率を現状の倍以上となる4%を目指すといっています。その経済政策とは以下の通りです。①米連邦法人税を現状の35%から15%へ引き下げる大幅減税、②企業の海外資金を国内に還流させるための税制優遇策、③中間層の大幅な所得税減税、④10年間で1兆ドル（約117兆円）の巨額インフラ投資。この経済政策による景気拡大への期待が大きく高まり、米金融市場に世界のマネーが集まる動きが起こっています。財政拡張路線に大きく舵が切られることから米国経済の大転換期を迎える可能性も議論されています。然しながら、税財源の裏づけのない財政拡張政策は、結果として財政悪化を招き悪い金利上昇につながりかねません。過度な金利上昇は、企業の設備投資を抑制し個人消費にマイナスとなり景気後退につながります。過度なドル高も米国製造業の競争力を失く

してしまいます。自国第一主義の通商政策は、一時的には貿易赤字の縮小に寄与しても長期的には国際間の貿易競争となり世界経済の縮小均衡に向かう恐れがあります。選挙期間中に対立した共和党指導部と良好な関係を築き円滑な議会運営が進められるかも懸念材料の一つとなっています。1月20日の大統領就任演説やその後の新政権の一挙手一投足を注意深く見守る必要があります。

安倍政権は、政権発足後5年目に入りました。政権発足当初掲げた潜在成長率を押し上げ需給ギャップを解消しデフレ経済を脱却する目標は未だに達成できていません。金融政策に過度に期待した景気回復策は未だ際立った成果を得られていません。今後、ますます米国を中心とする海外の政治・経済の動向に日本の景気は振り回されやすくなります。その中でデフレ経済を克服し潜在成長率を高めていくには、今までに掲げられた様々な構造改革、成長戦略を着実、迅速に実行していかなければなりません。

当社も、激変する経済環境の中で、生き残っていける企業体質・企業体力を築く努力を一日たりと怠ってはなりません。今年は昨年以上に予測不能な、予想外の事象が内外で起こる可能性が高い年と考えます。不確実性がより高まる年と覚悟せねばなりません。その環境下でしっかりと生き抜いていくために、今一度原点に立ち戻り、足元を見つめなおす必要があります。当社として何ができるのかを考え直してください。取引先との関係をより深く、より広くするにはどうすればよいかをしっかりと考え、取引先のニーズにあった新しい取り組みを提案していきましょう。そのために、自らの意欲を高め、実現できる能力を磨いてほしいと願います。

今年もみんなが与えられた職責、持分を十分に自覚し、各自が果たすべき仕事をしっかりと着実にやり遂げれば、必ずよい結果が得られるものと信じています。

みんなが健康で、みんなが努力の成果を喜び合える会社を目指していきます。

今年一年が皆さんと会社にとってより良い年となるように心から祈念して、年頭の所感と致します。

以上